



北九州市長  
北橋 健治

## アジアと共に生き、 成長するまちを目指して

北九州市は、九州の最北端に位置し、アジア諸国にも近いという地理的好条件から、アジアの玄関口として、また、日本の産業拠点として発展してきました。1960年代には、ものづくりの街として発展する一方、大気と水質の環境汚染が大きな社会問題となりますが、市民、企業、行政が一体となって公害克服に取り組んできた結果、1985年には、経済協力開発機構（OECD）の環境レポートで「灰色の街から緑の街へ」変貌したと高く評価されるほど、環境状況は大きく改善されました。1980年代以降は、この公害克服で培ってきた技術やノウハウを活用し、開発途上国の環境改善に積極的に取り組み、環境国際協力によるアジア各都市とのネットワークを構築してきました。

また、2004年には、アジアの急成長が世界の注目を集める中、環黄海経済圏の将来性に着目して、本市の発案により、姉妹友好都市である中国の大連市、韓国の仁川広域市などと共に、日中韓10都市のネットワーク組織「東アジア経済交流推進機構」を設置するなど、実質的な経済交流を目指した都市間のプラットフォームづくりにも取り組んでいます。

最近では、国際技術協力とともに、海外水ビジネスなどの技術輸出も進めており、今年に入り、カンボジアにおいて、浄水場の基本設計補完業務や上水道整備事業のコンサルタント業務を自治体として2件受注するなど、その成果も見え始めてきたところです。

さらに、今年6月には、OECDの経済成長と環境政策を両立した「グリーン成長モデル都市」に、アジアから初めて選定されました。今後は、本市の取り組みが全世界に大きく発信されることで、環境ビジネスなどの国際展開に大きな弾みをつけていきたいと考えています。

このような取り組みの成功には、事業を動かす人と人との繋がりが大きな鍵を握ります。本市では、自治体国際化協会の支援メニュー「自治体職員協力交流事業」を活用し、今年度までに55人の海外都市の自治体職員を研修員として受け入れています。

今後とも、「世界の環境首都」・「アジアの技術首都」を目指して、緑の成長戦略とアジアの成長ダイナミズムを取り込んだ地域振興を推進し、西日本地域の中心となって経済成長を牽引していきながら、東日本大震災からの1日も早い復興に寄与していきたいと考えております。